

ウワサの保護者会！

今回のテーマは「兄弟姉妹の子育て」

兄弟姉妹の子育てにお悩みを抱える、7人のホゴシャーズが集まり
ここぞとばかりの本音トークをぶっちゃけます！

【今回のホゴシャーズ】

夕顔 (母)：長女・高1/次女・中2

すもも (母)：長男・中3/次男・中2

ひまわり (母)：長女・高2/次女・小6

きりん (母)：長女・高1/長男・中1

うめ (父)：長女・小2/長男・年中

金のなる木 (母)：長男・小6/次男・小4

みかん (母)：長女・小5/次女・小3/三女・小1/四女・年中/五女・2歳

高山 : 尾木ママは ご兄弟は？

尾木 : 僕ね、3人兄弟。上が姉ちゃん、下が弟で、僕が真ん中なの。

やっぱり、姉ちゃんって時々ずるいんだよね。「一口だけ、その直樹の食べている柿、ちょうだい」とか言うからね、女の人だから、おちょぼ口だと思ってあげたの。そしたら、がばあつと、半分ぐらい取られた(笑) まだ、覚えている。小学校のときだった。

兄弟姉妹の子育て。

番組に寄せられたお悩みが多かったのが「きょうだいゲンカ」

金のなる木さんのお困りごとにもズバリ「兄弟ゲンカ」



6年生のげんき君と4年生のつばさ君兄弟は野球が大好き。家の中でだって真剣勝負！

一見仲のよいこの2人。

本当にささいなことですぐにケンカを始めるという。

たとえば野球ごっこでは、アウトかセーフかをめぐるとつきみ合い、
なんてことは日常茶飯事。

パソコンを交代で使っていると順番争いが小突き合いになり、
しまいにはイスから蹴り落としてどちらかが泣き出す始末。

2人で楽しく遊んでいたはずが、おもちゃにしていたベルトが相手の体に当たったのをきっかけにヒートアップ。エスカレートしたケンカはベルトを凶器に変え、なんと流血騒ぎに。
救急車を呼ぶ大事件になってしまった。



親としては見たくないきょうだいゲンカやもめごと。
みなさんのお宅ではどうですか？

高山 : 毎日なんですよ？

金のなる木 : そうなんです。昨日、2回戦ありました。

夕顔 : ケンカは止めないの？どのタイミングで、止めに行くの？

金のなる木 : 私は止めないですね。

ケガになったときは、さすがに止めに入りましたけど。

高山 : レフェリーみたいなの？一応、見守るっていうか？

金のなる木 : (ケンカを) やっているな。また、やっているな…って感じだいて、片方の声が (聞こえ) なくなったときに「ケガないよね」っていう感じで、チラッと見て…。

すもも : うちも、同じ2歳離れじゃないですか？

うち、上の子のほうが体大きいから、絶対に手を出したらダメよって言い聞かせないと無理。

弟は、バーンと物を投げちゃうから、レフェリーとして入らないと無理。

高山 : きりんさんのお宅のお子さんは？

きりん：上が女の子、下が男の子で、やっぱり仲悪いですね。

下の男の子が、お姉ちゃんを呼ぶときに、名前じゃなくってブスっていう感じで呼ぶんです。そんなこと言われたら、お姉ちゃんは嬉しくないじゃないですか。だから「キモイ」とか「ウザイ」とか、いろいろひどいこと言ってる。2人はいつも、バチバチしている感じですかね。

夕顔：うちは、もう、口。完全に口。口での言い合い。

姉はもう、かまわず「馬鹿じゃないの」みたいな感じでワーってせめて、妹がなんかキッってなるみたいな感じで。

ケガとかそういうことではないですけど。暴力だと、力関係が目に見えますけど、口だと力関係が結構見えないから、姉が手加減しないんですよ。

高山：尾木ママ、きょうだいゲンカっていうのは、何でしちゃうんでしょうね？

尾木：やっぱり、安心感がひとつあるよね。前提としてね。

だって、ママもいるわけですから、ある意味でね、人間関係の練習みたいなものよ。「あ、これ以上やったら、姉ちゃん泣いちゃうな」とかね。そこで、トレーニングされていくんだと思うの。だから、安心してケンカしている家庭っていうのもいいなと思いますよ。

夕顔：私ね、きょうだい仲悪くてもいいと思っているところあるんですよ。たまたま、同じ親の下に生まれてきたけど、合わないきょうだいて、そりゃ合わないじゃないですか？それを、きょうだいだから仲よくしなきゃいけないとかっていう枠にはめちゃうのは、窮屈な人もいるし、美しいきょうだい愛は素晴らしいと思うけど、そうじゃないパターンもしかたないと思っけて「仲よくやってよ」「ケンカしないんだよ」みたいな気持ちにならない。

尾木：それは、すごく楽ですよ。

兄弟姉妹の子育てでもうひとつ、多かったお悩みが・・・

「平等に接するのが難しい！」

(コップに入ったジュースを比べて・・・)

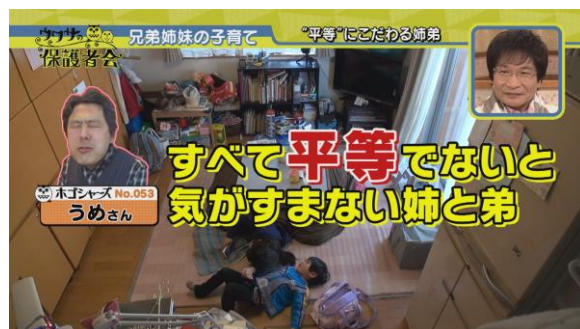
あやめ：こっちのほうが少ない！

うめ：いやいや、同じだよ。

あやめ：同じじゃないよね？

がくほ：ね！

あやめちゃんとがくほ君は、なんでも同じじゃないと気が済まない。こだわりの強～いお年頃。



この2人を納得させるのにホトホト疲れる！というのが、ホゴシャ〜ズ、うめさんのお悩みごと。

うめ : はい、朝ごはんです。

あやめ : 私は、こっち。



2人ともスープの量が多そうなほうを欲しがり、1歩もゆずらない。

がくほ : こっちがい〜い。

うめ : ジャンケンにしようか、ジャンケン。

あやめ : 負けても泣かないんだよ！最初はグー…

がくほ : 負けたほうがもらえる！

あやめ : 負けたほうね。最初はグー、ジャンケンポイ！・・・イエーイ！

(あやめちゃんが、ジャンケンに負けると・・・)

がくほ : いやーあ (泣)

あやめ : だって、負けたほう (がもらえる) って自分で言ったんだよ。

がくほ : くやしーい (泣)

ここで登場したのはガラスのコップ。

(同じコップにスープを入れて比べる)

あやめ : おととととと。

ここまでしないと納得できませんかあ〜 (汗)

一事が万事、この調子。

ごはんと納豆の量にもこだわり、食べ始めるまでにかかった時間はなんと15分以上。

おやつの時間になると・・・

2人とも同じケーキがいいと1歩も譲らない。さあ、どうする？

うめ : 半分ずつでいいじゃない。

こんなとき、お父さんの秘策は・・・
なんと！定規を使って正確さをアピール・・・



うめ : どうだ！これは同じだよ。
(2人が納得し、食べ始めてやっと…)
うめ : いやー…じゃあ、いただきます。
あやめ : やっと食べられる？
うめ : うん…。

ごはんのあとにも、うめさんに無理難題が突きつけられた！
歯の仕上げ磨きは1人ずつしかできないんですけど・・・

うめ : じゃあ、あやめちゃん待ってて。
あやめ : ダメ！がくちゃんの思いどおりに、いっつもなってるよ！
うめ : なってないよ～。
あやめ : なってる！
うめ : だって、がくちゃん泣いちゃうんだもん。
あやめ : 私の思い通りにならないじゃん！いっつも！
うめ : じゃあ、夜はあやめちゃんが先に磨いて、がくちゃんが2番ね。
あやめ : うん！
うめ : じゃあ、がくちゃんこれで終わり。うがいしてね。
 じゃあ、あやめちゃんお待たせね。
 えらかった。えらかったよ、あやめちゃん。
あやめ : やっと終わった。

平等にしてほしいという子どもの気持ち、みなさんはどう向き合っていますか？

高山 : 定規を使ってケーキを切るって…。初めて僕見ました。衝撃映像でした。
尾木 : 僕も長く生きていますけども、初めて見せてもらいました(笑)
うめ : そうですか!?
尾木 : でもよかったですね、2人で。3人だったら、3等分難しいわよ!(笑)
うめ : 難しいですよ(笑)
夕顔 : でも、かわいい。もう、そのままでもいいよね。もう、それ(そういう時期はいずれ)終わっちゃうんだから。本当に、そのときだけだから。懐かしいよ。
すもも : うん。懐かしい。
夕顔 : あんな感じで、ずーっとやってください。



高山 : ちなみに、先輩ママの話としてでもいいんですけど、例えば、昔こういうふうに平等にしていたって、何かありますか?
すもも : 食べ物だったら、半分にするって言ったら、じゃんけんをさせて「じゃあ、勝ったほうが、まず、自分で半分に分けてください。次に、負けたほうが選んでください」という。
金のなる木 : 選ぶ権利が2番目にあるの? 切るのは1番の人で?
すもも : そう。
(一同納得)
すもも : 「自分で半分に分けているんだから納得」というふうにやっています。
うめ : それいいですね。
高山 : あやめちゃん、ちょっと切ってごらんと言って。
うめ : そして、弟が選ぶという。あ、それいいですね。納得ですよ! ちょっと、やってみます
きりん : 私ちょっと思い出したんですけど、上の子に「あなたのほうが大きいんだから、我慢しなさい」みたいな感じで言っていたかなって思うんですけど、それって、どうだったのかなって…。
うめ : お姉ちゃんは我慢しなさいって、そう、言うんですよ。ついつい、やっぱり「お姉ちゃんだから、ちょっと我慢してね」みたいに、順番も、そうなんですけど、言いますね。
でも、うーん、私的にはね、ついつい言ってしまうながらも、お姉ちゃんが言われた分だけ、だんだんストレスが溜まるから、よくないのかなと思ったりもします。
尾木 : 「我慢してね」って要求するだけで、いつもお姉ちゃんが要求を呑んでいるだけだと、しんどくなっていくのよ。溜まってきているなと思ったら、それをちょっと切り替えて「お姉ちゃんだから、我慢してえらいね」って、ほめる言い方にすれば、お姉ちゃんの内省が出てくるの。

- 尾木 : お姉ちゃんって、我慢するときあるじゃない?そういうとき、ほめてみるのよ。「さすが、お姉ちゃん、えらいと思うよ」って。
- 高山 : ほめるという点で、上の子と下の子のバランスっていうのはどうですか?
- ひまわり : 下の子と私が似ているところがあって、下の子の気持ちがよくわかるので、子どもからは「下の子に甘い」って言われちゃいますね。でも、上の子ももちろんかわいいですし、下の子もかわいくて…。でも、それを私が上手く表現できないのかもしれないです。
- 夕顔 : うちの、下のほうと私は結構わかり合えるというか、似ている感じで、なんかトラブルあったとしても「あー、まー、私もそうだったから、わかるけど」っていう感じで言ってあげるんだけど、上の子はよくわからない感じなので「何で、そうなっちゃうの!」っていう感じで。なんかトラブルあったとき私の対処が、上と下とで、もう全然違うわけ。それに対してお姉ちゃんがすごく不公平感を持っていて、下の妹へ方が、なんか当たりが柔らかいというか優しい感じだっていうふうに、言われるんですけど。
- すもも : 上の子は性格上、ほめたら伸びるっていうのはわかっているんです。わかっているんだけど、上の子を「ちょっと、ほめられていないな」っていう自己嫌悪がある。
- 高山 : 本当はうまくほめてあげたいな、と思っている?
- すもも : そう。この子はほめたほうが、伸びるっていうのをわかっているんだけど、と思いつつ、上手くほめられてないのが悩み。
- 尾木 : 苦労されているね～。
- 夕顔 : 私は、気持ちとしては、同じようにと思っていますけどね。
だから、文句を言ってきた人の話をよく聞くみたいな感じですよ。今でも、よく口喧嘩して私に言いにくるんです。お姉ちゃんが、ああした、こうしたとか、妹が、ああした、こうしたって、言いに来るんですけど。最近私がやっているのは、もう、「同調」ですね。「だよね」「わかる」「あいつ、あーだよね」
(一同笑)
- 夕顔 : そうすると結構、スツとその文句が止むんですよ。
- 金のなる木 : わかってきているっていう感じ?
- 夕顔 : そうそう。だから、いつまでも逆のほうの(子の)肩を持ったりすると、いつまでも文句言っているし、いつまでも怒っていますよね。だから、文句言ってくるときに、一緒に同調してやってあげると、わりとスツと帰っていくんですよ。
- 尾木 : 肩の力を抜いて、子育てやってけるコツかもしれないですね。
だいたい不満を言ってくるってというのは、解決してほしいというよりも、共感してほしいんですよ。夫婦の関係でも、そうじゃない?「こんなことあったのよ」って言ったときに「お前がこうしないからダメなんだろう」と言われたら…。
- 夕顔 : ああ、そう、それ!それ、本当に嫌だ。
- 尾木 : むかつくでしょ?
「わかるよ、おまえ。そうなんだ、大変だったね」って言ってほしいんだもの。

夕顔 : 自分の(気持ちを)わかってもらえると、相手への理解も進むっていうか。しっかり聞いてあげると「まあ、しょうがないよね。あんな人だから」みたいな感じで終わっていくんですよ。

尾木 : あの、自分のことがわかってもらえていると、他者理解力も深まるんですよ。

一同 : ほおー。

尾木 : それを、親が一生懸命「こうしろ、ああしろ」「姉ちゃん、こうだろう」とかね「弟は、こうだろう」って、どれだけ言ってもダメなの。

夕顔 : やっぱ、子どもって自分だけを見てほしいと思っているみたいで。うちの子は2人とも「一人っ子がよかった」って言っていますから。

尾木 : そうなんだ。

金のなる木 : それは、未だにですか？

夕顔 : 昨日聞いてきたんです。もう、やっぱり「かまってちゃん」で自分を見てほしいという感じがあるって言っていましたよ。

高山 : 私にだけの愛がほしいっていう？

夕顔 : はい。

高山 : あーそうか。

尾木 : 自分の方を向いてくれているっていうのがわかれば、相手の気持ちがわかる子になるわけですよ。愛されているとか、自分は大事にされていると思ったら、余裕が出ますから。兄ちゃんとか姉ちゃんの気持ちもわかるし、仲のよいきょうだいにもなるんじゃないかなと思いますよね。

高山 : 後半、まだ、一言もしゃべっていない、みかんさんに、たっぷりと語っていただきますので、乞う、ご期待です。

ホゴシャーズ、みかんさんの子どもは5人姉妹！

長女 すいかちゃん

二女 らいちちゃん

三女 きゆいちゃん

四女 りんごちゃん

そして、五女のすももちゃん



2歳から10歳まで5人も子どもがいたら、お母さんはさぞかし、てんてこまい！
と、思いきや！長女のすいかちゃんのひと言で・・・

(ゲーム機をいじっている末っ子のすももちゃんに)
すいか：もも、ダメって言っているでしょ。

2歳のすももちゃん、ちゃんと言うことを聞いてお片づけ。

続いて小さい子がいると何かと大変な食事の時間ですが・・・



2歳のすももちゃんの姿に撮影スタッフはびっくり！
納豆の糸をくるくる上手に切ってこのとおり！
サラダも、食べられる分だけ自分で取り分けるしっかり者。
となりにいるお母さんは、全くといっていいほど手を出さなくて大丈夫。
(すももちゃん自分で口を拭く)
あらキレイ好き～。

どうしてすももちゃんはこんなにしっかりしているの？

すいか：たぶん、一番下だからみんなのお姉ちゃんとかのを見て覚えているんだと思う。

妹たちの面倒をよく見る長女のすいかちゃん。
お母さんに言われなくてもお手伝いも自分からするという。

取材スタッフ：妹の世話もお手伝いもしてくれて言うことないですね？

みかん：そうですね。もうちょっとね、勉強してくればね(笑)

取材スタッフ：勉強だって。

すいか：笑

お姉ちゃんのこと好き？

りんご：はい！

すもも：はい！

すいかちゃんにお願いしたいことはある？

りんご：あります！

すもも：あります！



なに？

りんご：すいと寝たいです！

すもも：すいと寝たいです！

(長女すいかちゃんを中心にみんなで寝る準備)

(箱からおもちゃを取りだしたりんごちゃんに)

すいか：どいて。なんで出すの？バカじゃないの、片付けて。片付けて！

すいか：もも、どいて。

すもも：ヤダ。

すいか：もも！

すもも：はい。

(ママの手を借りずに、寝る準備完了)

長女って大変そうだけど、もう一度生まれてくるとしたら何番目がいい？

すいか：えー、7人くらいが一番上。

みかん家では、上の子も下の子もきょうだいと関わりながら
ルールを守る大切さや、思いやりを育てていた。

みなさんのお宅ではどうですか？

一同 : すごい！

みかん : でも「一番上がいい」っていうのはすごくビックリしました。

高山 : 最後のすいかちゃんの？

みかん : (涙ぐんで) はい。それぞれが一人っ子のほうがよかったと思っているのかなと思っていたので。これはちょっと、驚きだった。

高山 : 夕顔さん、結構驚かれていましたね。

夕顔 : だって、2歳の子がいて、自分がごはんが食べられているっていうことが、すごいでしょう？

尾木 : そう。もう、納豆切りしたよ (笑)

夕顔 : だって、ラーメンとか食べられなかったでしょ？5歳くらいまで。

金のなる木 : そう。器に入れて、ねえ？

夕顔 : そう。フーフーしている間に自分のが伸びきるって世界でしょ。寝るときとか、じゃあ、自分たちで？

みかん : そうですね。

夕顔 : ママは片付けとかしてられる？

みかん : はい。

夕顔 : ありえないよね？一緒に行かないと寝られないよね。

みかん : 下、3番目ぐらいからは寝かしつけも、全然したことがなくて。

尾木 : おー！

(一同感心)



尾木 : あのお姉ちゃんを、あんなふうに育てていこうという戦略っていうのかな？なんか、手立てと
いうか、ねらいはあったんですか？

みかん : いや、特にはないですね。

尾木 : ひとりでになったの？

みかん : はい。

尾木 : ひとりでに！？超、ずるーい。みんな悩んでいるのに、ねえ？

みかん : 四番目が生まれたときに、長女が年長だったんですけども、そのときは、やっぱり、長女に、次から次へと妹が生まれて、いろんな面で我慢させているんじゃないかなって、すごく悩んだことはあります。

尾木 : やっぱり、悩まれたりはしているんですね。

みかん : あ、はい。

尾木 : それで、どんな対応されたんですか？

みかん : でも、幼稚園の先生に相談したら、そこまで我慢はしてないっていうようにおっしゃってくださって、すごく気が楽になりました。

尾木 : なるほど。そういうときに、幼稚園の先生に相談するとかいうのも、手ですよ。

高山 : 先ほど、すいかちゃんが、7人きょうだいで一番上とおしゃって、泣いてらっしゃったじゃないですか？ふだんは、そういう話までは、家庭ではしてないっていうことなんですかね？

みかん : そうですね。でも、生まれてきてくれてありがとうっていうのは、なるべく伝えるようにはしています。

尾木 : それ、生まれてきてくれてありがとうっていうのは、節々でなんですか？どんな節で？

みかん : この間、長女の2分の1成人式があって、アルバムを引っ張り出して。やっぱり、長女が一番写真が多いので。

尾木 : そうなんですよ、あれ不思議なんだー(笑)

高山 : 上の子、多いつすよね。

みかん : こんなにうれしかったんだよっていうのをちょっと話したりして…。生まれてきてくれてこれだけうれしかったというのは、1人ずつに伝えようとは…。

高山 : 日々、心がけてらっしゃる？

みかん : はい。心がけています。

高山 : 愛ですねー。

尾木 : 母なる大地っていう感じよ。ねえ、うん。

みかん : なんか彼女も、好きで一番上で生まれてきたいと思ったわけじゃないと思うので、だから、先ほど言っていた「お姉ちゃだから」ということは、私は1回も言ったことはないですね。「お姉ちゃんだから、やりなさい」と言ったことは1回もないです。あの、次女も、三女も。

夕顔 : その、ママがお姉ちゃんに負担かけているんじゃないかっていって、気にかけているじゃない？

みかん : はい。

夕顔 : それで、たぶん伝わっているんじゃない？

みかん : ああ、そうなのかな。

夕顔 : だから「私、大丈夫だよ」「ママ、心配しないで」という気持ちなのかもしれないよね。



- きりん：一番上のお姉ちゃんが、黙っていても、一緒にお台所に立って手伝ってくれるっていう“奇跡”を見せてもらったんですけど(笑)
普通、やらない…。うちなんか、言ってもやらないし、自分でできることもやらない感じなんですけど、どうすれば？
- みかん：どうなんですかね…。でも、大変さをわかってくれているのかなと思いますね。本当に私が、結構いつもバタバタしているので。洗濯も多いですし、ごはん作るのも。だから、必然的にできたのかなとは思いますが。
- 尾木：お姉ちゃんがやっていると、下の子もお手伝い一緒にしてくれるの？
- みかん：下の子も「なにか、お手伝いしない？」って聞いてくれて。
- 尾木：「ない？」って聞いてくれるの？
(一同驚き)
- 高山：姉妹、兄弟の多さっていうのが、それを可能にしているんですかね？まあ、環境がそうしているというか…。
- うめ：うちなんかだと、近所に年がちかいいとこが二人いて、その子たちと仲よくしているんですけど、うちの長女が、その中で一番年上になるんですよ。そうすると、うちの長女は結構、面倒見がよくなるんです。
- きりん：えー！じゃあ、やっぱり、そういうのがあるのか。
- うめ：面倒見がよくなります。どうしても、自分がリーダーシップ発揮しなきゃいけないっていう意識があって、そのときは仕切るんですよ。
- ひまわり：納得できるな。
- 高山：一理あるなど？
- ひまわり：はい。今は通ってないんですけど、以前学童保育に通っていて。
- 尾木：ああ、学童保育もいいね。
- ひまわり：サマーキャンプがあって、長女が6年生、次女が1年生のときに、行ったことがあるんですけど。長女はその中でリーダーやって、そのときは面倒見はいいほうだったみたいです。
- 夕顔：外で、ちゃんとできる社会性が身につけていれば、うちでわがままでもね。
わがままって、要するに、甘えているっていうことですよ。うちって、自分のわがまましたいところですよ。うちで多少わがままやるのは、それはまあ、家族にしか見せない顔で、それはいいかなと思っていただけ…。
まあ、みかんさんのお宅のような姿を見ると、なんかなんか(笑)堂々巡り。いいかなと思ったり、あれっと思ったり、こう巡ってくる。
- 尾木：だから、みかんさんのところが、あんなに上手くいっているのは、共感能力がものすごく高いんですよ。ママが大変だろうと思うことを、一番上のお姉ちゃんがね、想像できる訳でしょ。そのお姉ちゃんが一生懸命手伝って、お母さんを支えているよっていうのを、下の子が次々と共感している。共感性が非常に高いんですよ。だから、自分も、自分もっていうふうに、いい意味でこう、回転しているわけね。うーん。ああいう家庭もあるんだと思うと、やっぱり羨ましいでしょ？

うめ : 羨ましいですよ、やっぱり。僕、本当はね子どもたちから愛がほしかったんだけど、これから、もうちょっと自分から愛を注ぐように…。

高山 : 子どもたちから、愛がほしかった? (笑)

うめ : 愛がほしかった!

(一同笑)

高山 : 言っちゃいましたね (笑)

うめ : 愛を求めていたんだけど、これから注いでいきたいと思いました。

尾木 : 基本線、子どもたち同士で、育ち合っていくっていうかね。ケンカってというのは、二人いなきや、ケンカにならないわけですから。そこを通してね、育っていくんだっていうのは、確信を持ってもいいんじゃない? だから、今はいろんな苦労されて、あの定規でケーキを測るとか (笑) これも、愛情よ。やっぱり、愛ですよ。だんだん、大人になってきたら「あ、あれも愛だったんだ」と「愛の定規」とか言って結婚式のとくに持ち出されたりするよ (笑)

(一同笑)

尾木 : そうよ。取っとしたほうがいいって、それ (笑)

みなさんの意見や体験談「ウワサの保護者会」のホームページまでお寄せください!

(終)